

TruPhase の活用(23)  
—音源の位相確認(23)—

1. はじめに

TruPhase の位相反転機能を利用して音源の位相確認を行っていますが、前報(22)に引き続き CD の位相確認を行います。

2. TruPhase の位相反転機能による音源の位相確認計画

前報(8)と同様、前報(1)と同じ経路で CD の位相確認を行いつつ、バッハの CD を聴いていきます。

CD ドライブ→fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC+→TruPhase  
→300B シングルアンプ

試聴した CD 音源は、バッハの作品で下記のとおりです。

**S&R AVCL-25005**

J.S.Bach あなたがそばにいたら他  
森麻季 (ソプラノ)  
山岸茂人 (ピアノ)

**ARCHIV UCCA 1089**

J.S.Bach カンタータ集  
アンネ・ゾフィー・フォン・オッター (メゾソプラノ)  
ラーズ・ウルリク・モルデンセン指揮コンチェルトコペンハーゲン

**ARCHIV UCCA 1049**

J.S.Bach カンタータ BWV170 他  
マグダレーナ・コジュナー (メゾソプラノ)  
ラインハルト・ゲーベル指揮ムジカアンティクァケルン

**SONY SICC106**

J.S.Bach カンタータ集  
アンゲルカ・キルヒシュラーガー (メゾソプラノ)  
アンドレーア・マルコン指揮ヴェニスバロックオーケストラ

3. TruPhase の位相反転機能による音源の位相確認結果

上記 CD について、Brooklyn DAC+での位相反転と TruPhase での位相反転の結果が同じになるかどうか焦点です。

音量調整を容易にするため、Brooklyn DAC+では位相反転させず、TruPhase で位相

反転させた状態で TruPhase のヴォリュームを固定し、TruPhase での位相反転では、Brooklyn DAC+でのヴォリュームでの調整だけにしました。

そして、Brooklyn DAC+では位相反転させないで、TruPhase での位相反転有り無しで聴いていきます。

森麻季盤は、位相反転させますと、定位が曖昧で、森麻季のソプラノもピアノも音像が広がりすぎます。位相反転させないと定位がしっかりして、森麻季のソプラノもピアノも焦点があって、[昨年1月の演奏会](#)の記憶が蘇ってきます。

アンネ・ゾフィー・フォン・オッター盤は、位相反転させますと、定位が曖昧で音の焦点が合いません。位相反転させないと定位がしっかりして、個々の楽器の質感が明瞭になり、アンネ・ゾフィー・フォン・オッターの歌唱の様がリアルになります。

マグダレーナ・コジュナー盤は、位相反転させますと、定位が曖昧で過度の広がり感があります。位相反転させないと定位がしっかりして、個々の楽器の質感が明瞭になり、マグダレーナ・コジュナーのメゾソプラノの情感が伝わってきます。

アンゲルカ・キルヒシュラーガー盤は、位相反転させますと、定位が曖昧で過度の広がり感があります。位相反転させないと定位がしっかりして、ヴェニスバロックオーケストラの柔らかいアンサンブルの前にキルヒシュラーガーのメゾソプラノが定位して艶やかな歌唱を聴かせてくれます。

#### 4. まとめ

上記4盤とも正相であることが分りました。

以上